

2 地域の概況

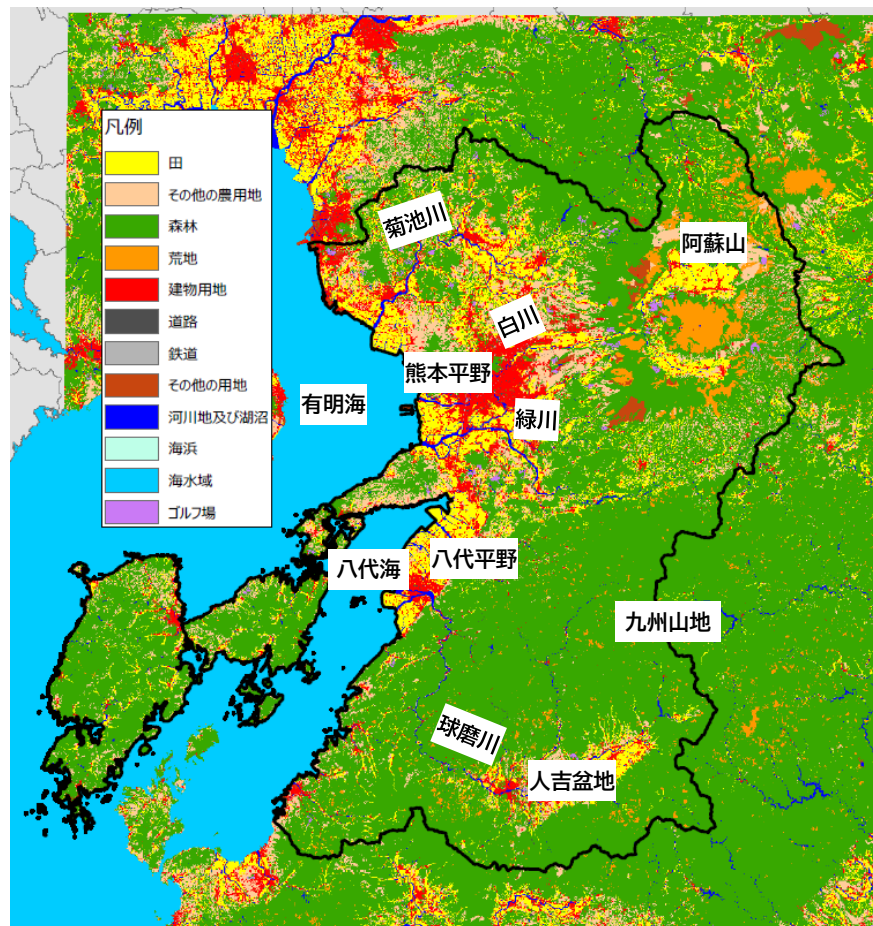
(1) 地勢・地理

本県は九州の中央部に位置し、総面積は約 7,409 km²（令和 2 年全国都道府県市区町村別面積調）で全国第 15 位、約 6 割が森林で占められている。

北部は比較的緩やかな山地、東から南にかけては標高 1,000m 級の山々に囲まれており、北東部は世界有数のカルデラを持つ阿蘇山がそびえる。

西部には平野部が広がる。北西部で熊本平野が有明海に、南西部で八代平野が八代海にそれぞれ面しており、その間から宇土半島が突き出し、天草五橋により天草諸島へと続いている。南東部には山地に囲まれた人吉盆地があり、九州山地を隔てて宮崎県と接している。

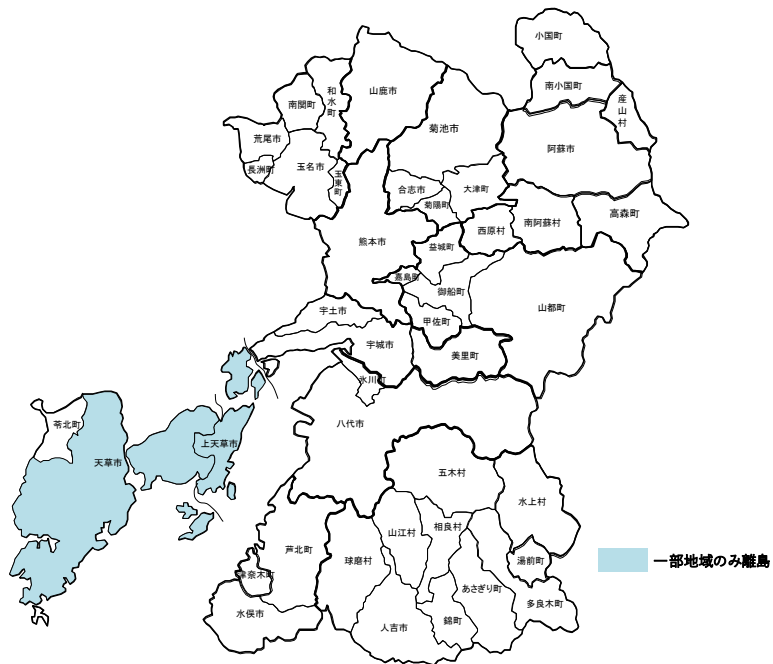
水系は、阿蘇を源とする菊池川・白川、九州山地を源とする緑川が有明海に、同じく九州山地に端を発する球磨川が八代海に、それぞれ注いでいる。



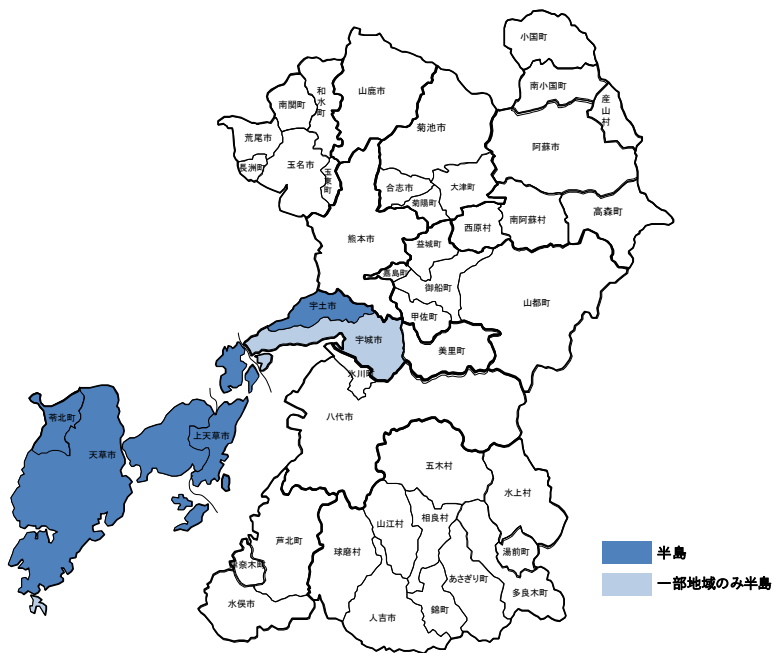
出典：国土数値情報

図 2-1 土地利用

(3) 離島



(4) 半島



(令和2年3月1日現在)

図 2-2 地域指定状況

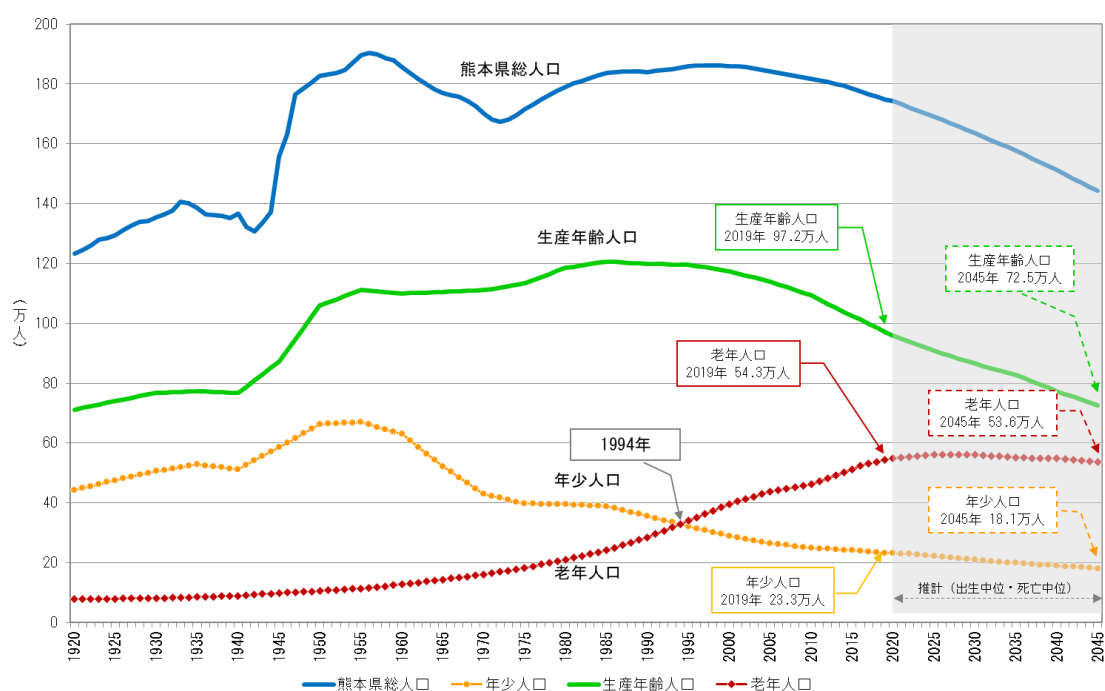
(2) 社会状況

① 人口動態

本県の人口は、平成10年を境に減少傾向にあり、全国よりも約10年早く人口減少局面に突入し、令和2年10月1日時点で173.6万人（熊本県推計人口調査結果報告）となっている。

年齢3区分別では、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）が減少し、老年人口（65歳以上）は増加している。

この傾向は将来的にも続くことが想定され、「熊本県人口ビジョン（改訂版）」における本県の将来展望では、2045年（令和27年）には総人口が152.1万人（国立社会保障・人口問題研究所の推計では144.2万人）、このうち約3人に1人が高齢者になると推計している。



出典:熊本県人口ビジョン(改訂版)

図 2-3 年齢3区分別人口の推移

Keywords

生産年齢人口の減少

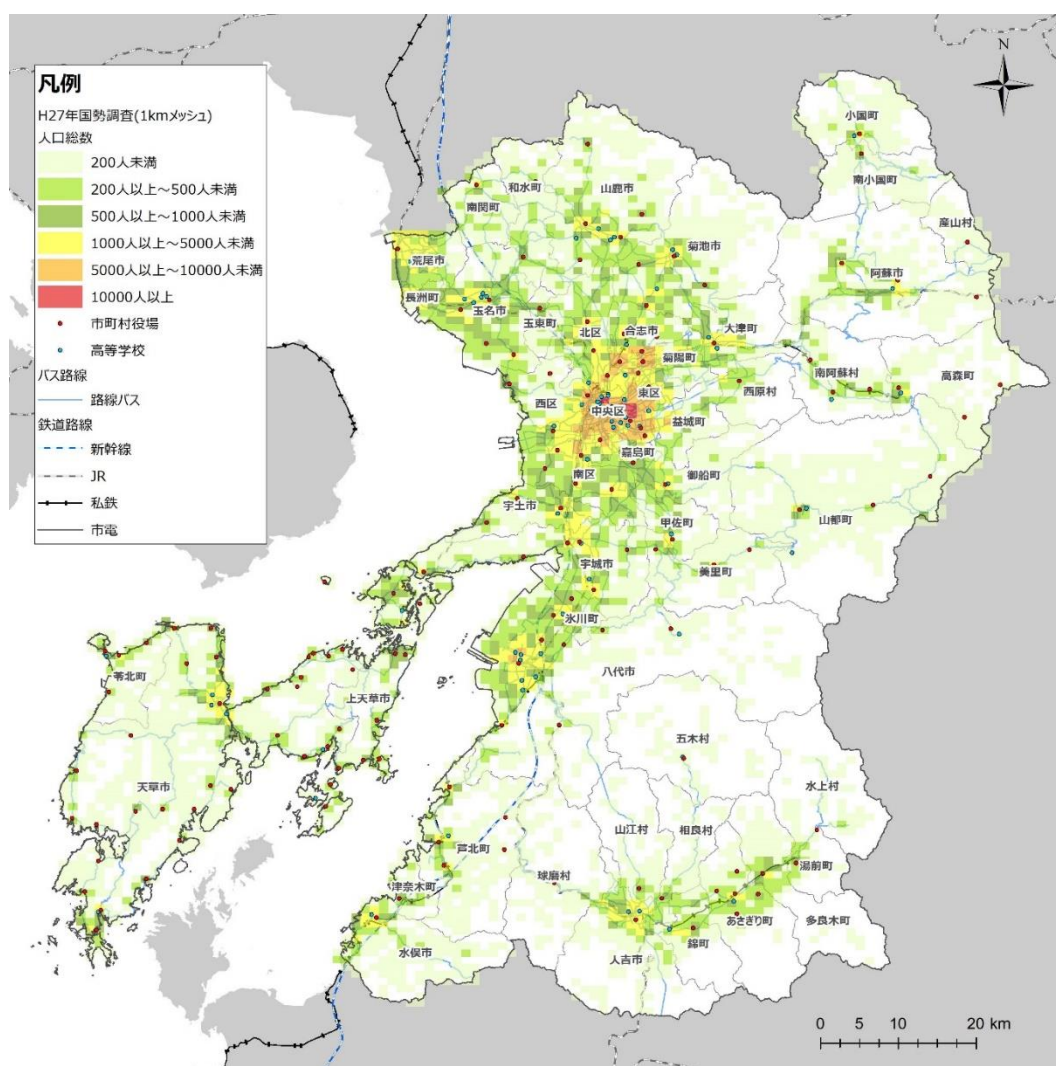
少子高齢化の進展

本県は、政令指定都市である熊本市をはじめ 14 の市と 23 町 8 村の合計 45 市町村から構成されている。

人口の分布をみると、総人口の 4 割以上に当たる約 74 万人が熊本市に集中しており、同市を中心に合志市や菊陽町にも人口密度が高い地域の広がりが見られる。

それ以外の地域では、宇土市、宇城市、荒尾市、玉名市、山鹿市、八代市、水俣市、人吉市、天草市の中心部などで人口の集中が見られる。

一方、多くの中山間地域では人口が希薄であり、半数以上の 27 市町村が過疎地域（いわゆる「みなし過疎」及び「一部過疎」含む）に指定されている。

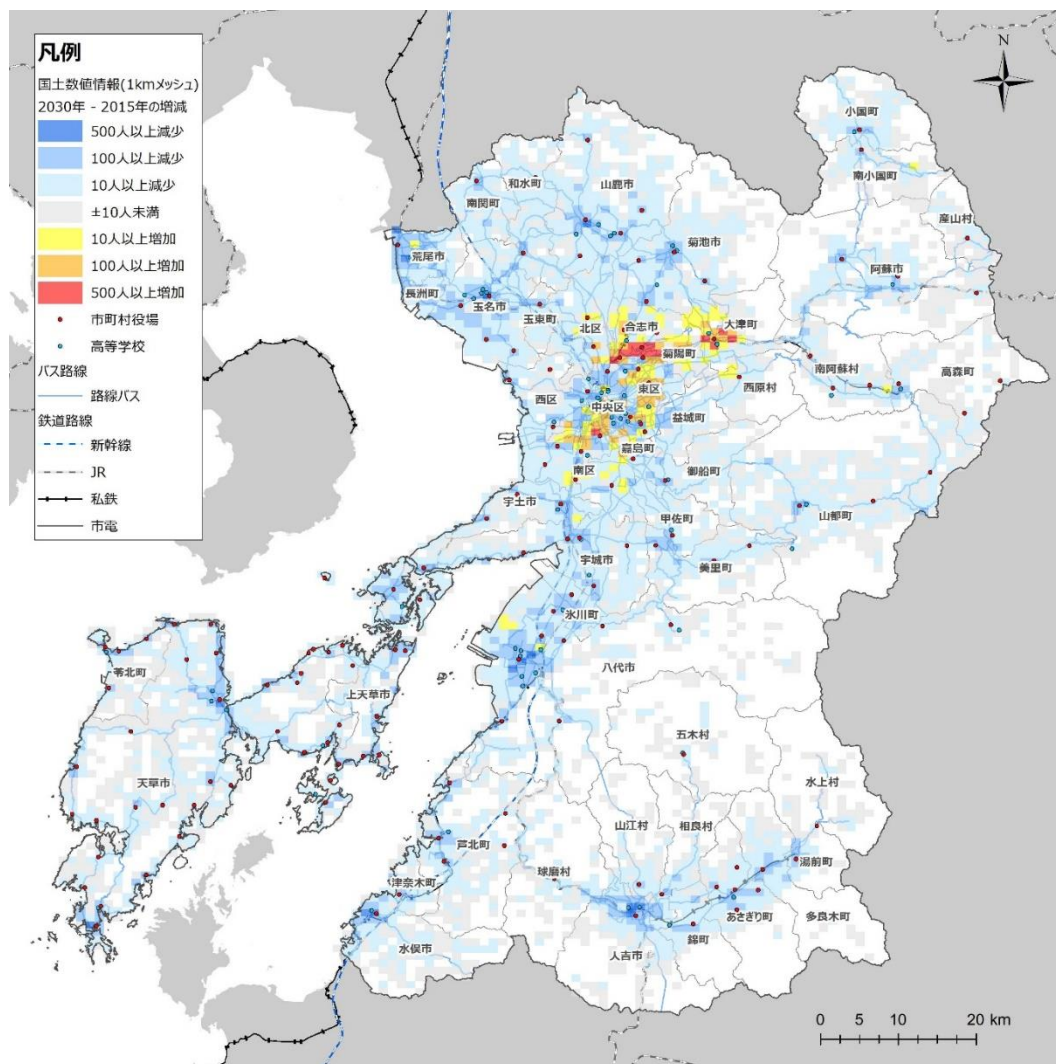


出典:平成 27 年国勢調査

図 2-4 本県の人口分布

図 2-5 は、平成 27 年時点の人口に対する将来推計人口（令和 12 年時点）の増減を表したものである。

熊本市中央区及び東区、合志市、大津町、菊陽町等において、人口増加が見込まれるほかは、県内のほとんどの地域で人口が減少する推計となっている。



出典:平成 27 年国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所推計値

図 2-5 平成 27 年時点の人口に対する将来推計人口（令和 12 年時点）の増減

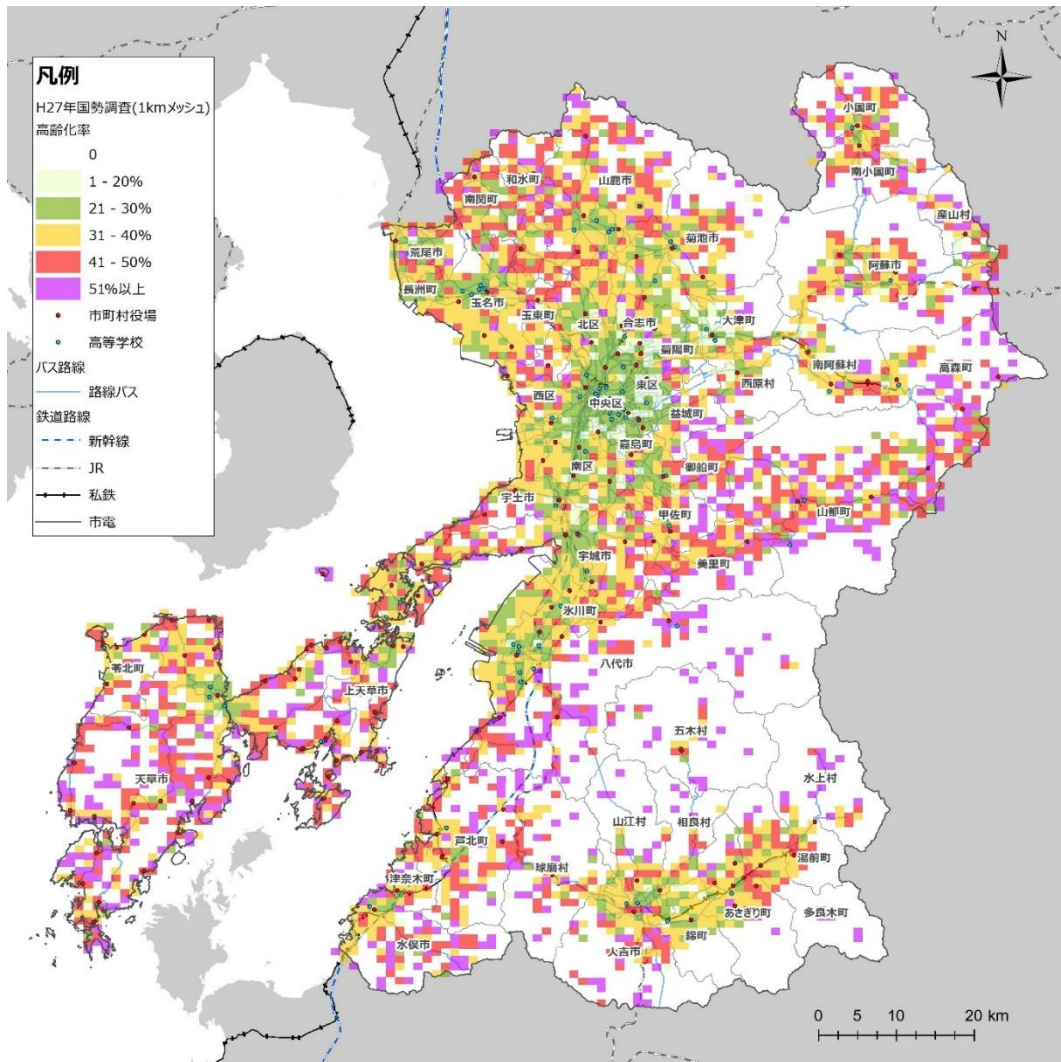
Keywords

人口の二極化

過疎化の進行

県域全体で、高齢化率が高い区域が広範囲に分布しており、特に過疎地域に指定されている市町村においては、多くの区域で高齢化率が50%を超えている状況が見受けられる。

一方、都市部においても、中心部から少し離れた地域では高齢化率が高い区域が散見される。



出典:平成 27 年国勢調査

図 2-6 高齢化率の分布状況

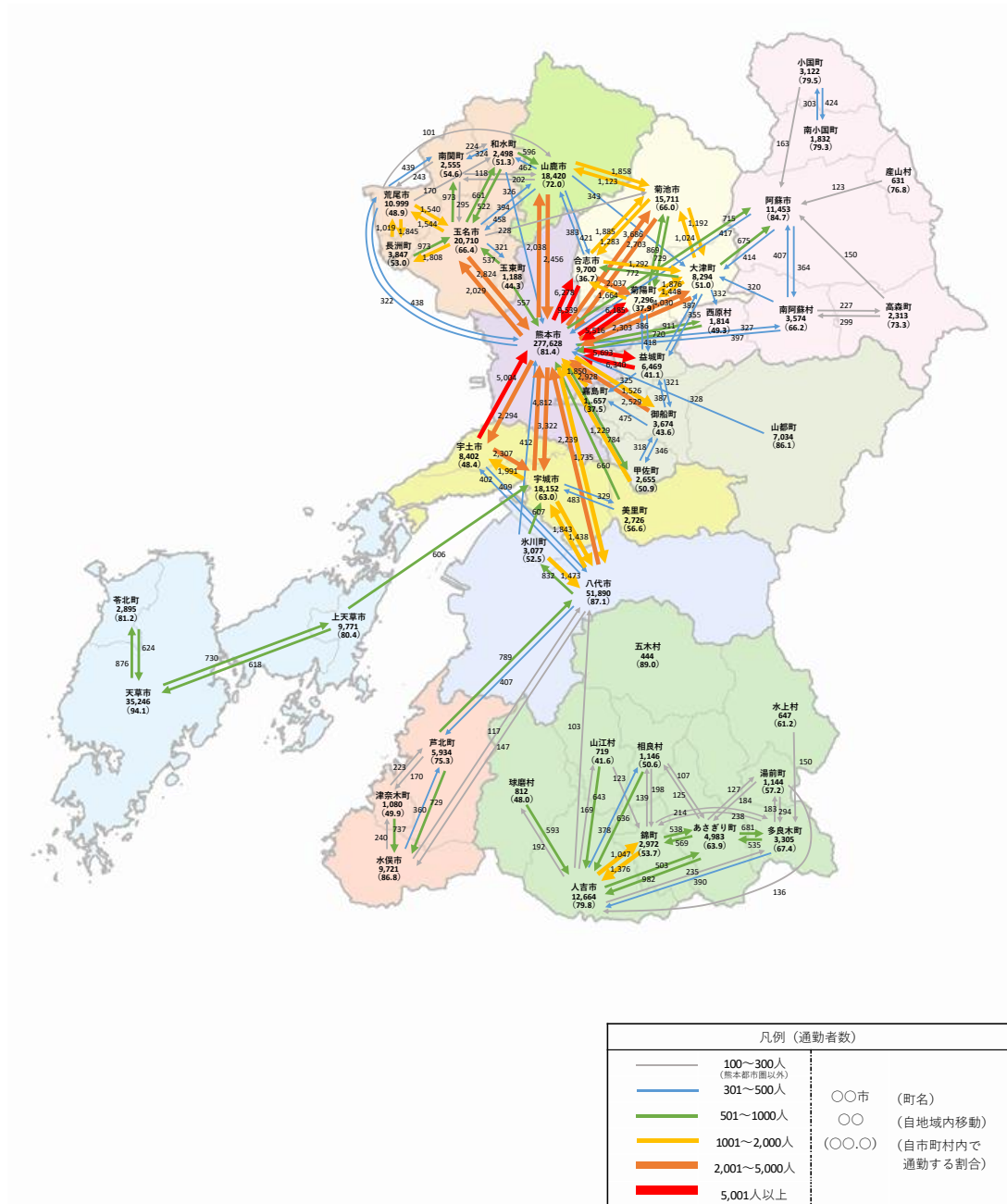
Keywords

高齢化率が高い区域が広範囲に分布

② 移動特性

図 2-7 は、本県における通勤移動による市町村間の人口流動を表している。

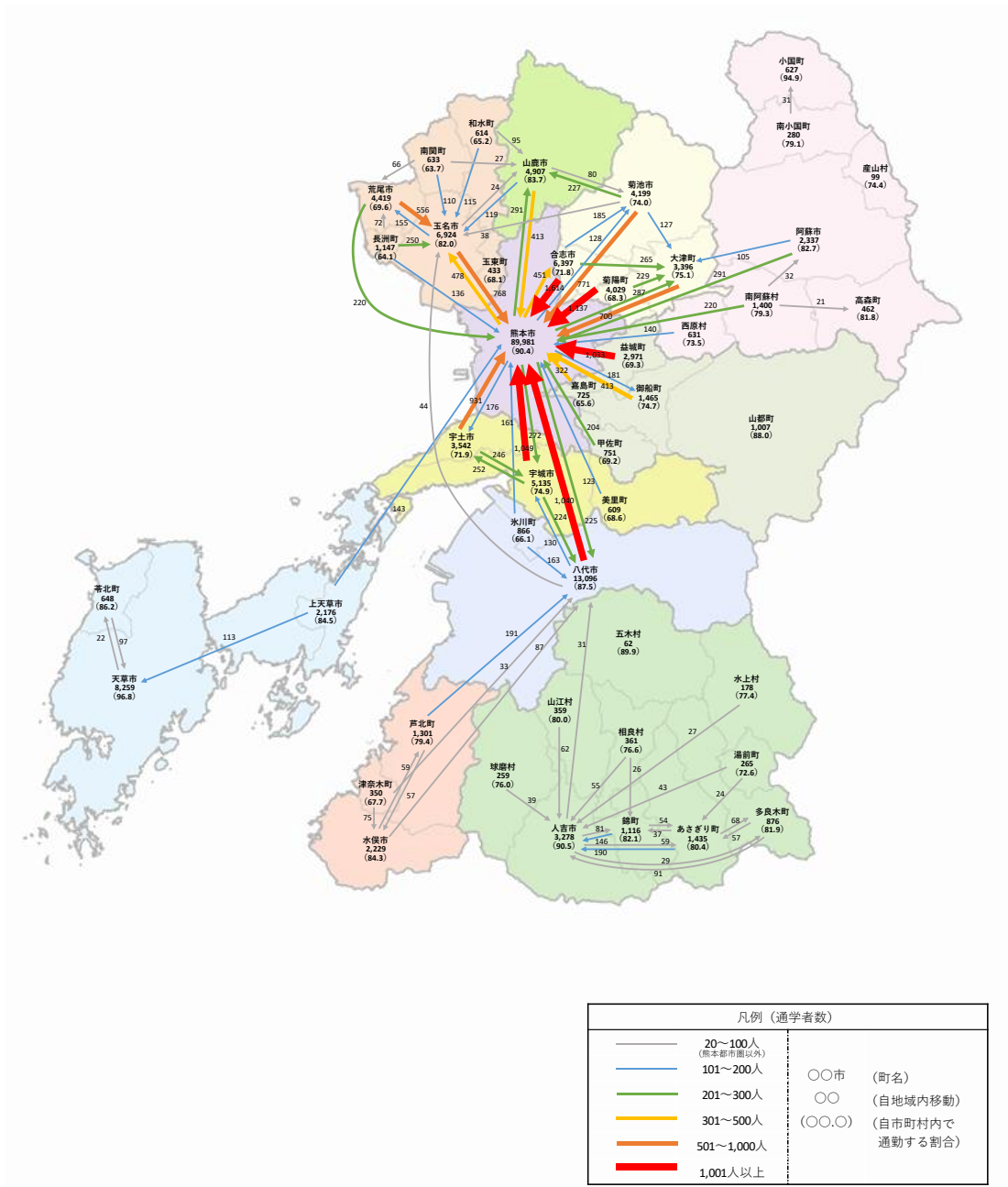
広い範囲の市町村と熊本市との間で相互に通勤流動があることがわかる。また、熊本市以外では、玉名市や阿蘇市、人吉市等において、各地域ブロック内の周辺市町村からの通勤流動が集中している。



出典:平成 27 年国勢調査

図 2-7 通勤移動による人口流動

図 2-8 は、本県における通学移動による市町村間の人口流動を表したものである。多くの大学、高校が立地している熊本市に、周辺市町村からの通学流入が圧倒的に集中している一方で、熊本市から周辺市町村への通学も一定数見られる。その他、生徒数の多い高校が立地する玉名市、大津町、八代市、人吉市等には、一定程度の流入が見られ、地域ブロックをまたぐ流動も存在する。



出典:平成 27 年国勢調査

図 2-8 通学移動による人口流動

Keywords

市町村間・ブロック間をまたぐ人口流動

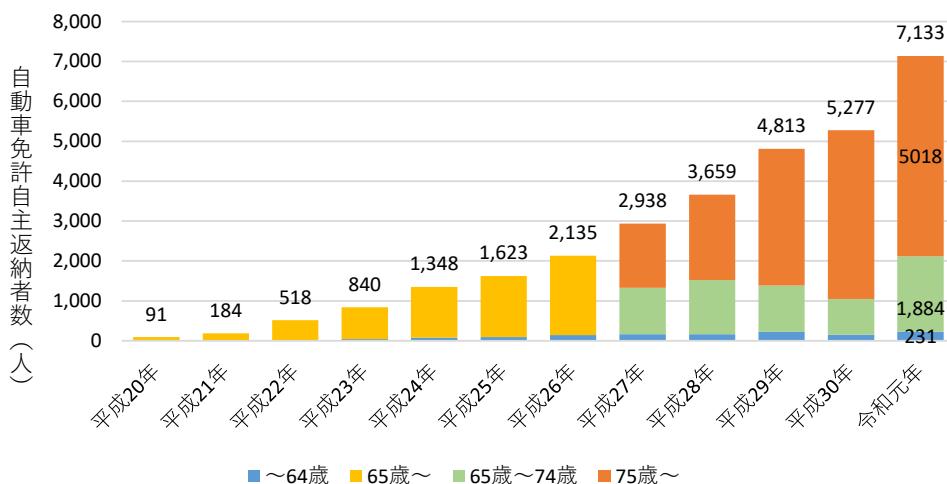
③ 運転免許保有・返納の状況

人口の高齢化に伴い、高齢者の運転免許者数は年々上昇を続けているが、その一方で、運転免許の自主返納者数も増加している。

本県においては、運転免許自主返納者数が増加し続けており、令和元年には自主返納者数が7,100人を超えた。



図 2-9 本県における運転免許人口の推移



※平成 26 年以前：「～64 歳」「65 歳～」の 2 区分

平成 27 年以降：「～64 歳」、「65 歳～74 歳」、「75 歳～」の 3 区分

出典：運転免許統計

図 2-10 本県における運転免許自主返納者数の推移

Keywords

免許返納に伴う交通弱者の増加